

令和7（2025）年度

白岡市教育委員会の
点検・評価に対する意見書

吉 野 高 男

板 垣 時 夫

令和8（2026）年3月

白岡市教育委員会の点検・評価に対する意見書

吉 野 高 男（よしの たかお）

（元白岡市立小・中学校校長会会長、元白岡市立南中学校長）

板 垣 時 夫（いたがき ときお）

（白岡市文化財保護審議会会長、埼玉県文化財協会副会長）

はじめに

《白岡市教育行政の基本理念》

白岡市教育委員会の基本理念は、『「学び楽しむまち」を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な人間を育成するとともに、家庭・地域・学校が一体となって、市民一人一人のライフステージに応じた教育・学習活動を推進する。また、特色ある地域文化を活かしつつ、「白岡らしさの発見と創造」を図り、あらゆる機会と場所で自由に「学び」「楽しみ」「創る」ことのできる生涯学習社会を実現する。』ことを目指している。

《本制度の趣意》

白岡市教育委員会点検評価報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、白岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価したものである。

この点検及び評価の対象は、「第6次白岡市総合振興計画（基本構想・前期基本計画）」、「第3期白岡市教育振興基本計画」等に基づき、令和7（2025）年度に教育委員会が実施・推進した施策等について、第三者的立場から、未来に向かって白岡市の教育の一層の発展を願って、公明正大に点検及び評価を行ったものである。

なお、令和7年度から、スポーツと文化の振興に関する部分の事業について首長部局の文化・スポーツ振興課に移管され、事業の実施主体は教育部局の手を離れたため点検・評価の対象とはしていないが、今後も協力連携を図ることを要望する。

総合評価…おおむね達成している（約85%達成）

昨年度と比較し、わずかだが達成率が下落した。これは、市役所庁舎の火災の影響により事業を開催できない期間が生じたことが原因であると考えられる。

そのような中でも、限られた人員と予算で工夫し取組を行っていることが評価できる。

《今年度特に注目すべき事項》

1 白岡市教育振興計画の諸施策の実践

第3期白岡市教育振興基本計画は、「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」を基本理念として計画・実践され、今年度は4年目の取組となった。コロナ禍後、取捨選択を経て今年度は一層適正かつ合理的に施策が実施できると予想された。そのような中、5月に市役所庁舎が火災に見舞われ、業務の停滞が懸念された。

しかしながら担当職員の真摯な努力と一層前向きな姿勢により諸施策が実施されたことを評価する。

また、学校教育においては、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化と定着が求められている中、GIGAスクール構想による1人1台端末を活用し、児童生徒の「確かな学力」の育成に取り組み、成果をあげている。このことを評価する。

さらに、それらの実践の成果として、本市の児童生徒は、全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、高い学力を維持していることを評価する。

2 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成の推進

本市では、積極的に地域人材を活用するとともにその教育力を導入することで、家庭・地域・学校が一体となって児童生徒の育成が推進されていることを評価する。

また、全ての小・中学校に学校運営協議会が設置され、その取組が本格化し定

着してきている。このことが地域の実情を踏まえた特色ある開かれた学校づくりに大きく寄与していることを評価する。

《今年度の点検・評価の基本的視点》

- (1) 第3期白岡市教育振興計画に基づき施策が着実に実践されているか
- (2) 地域と連携した学校教育及び社会教育活動が着実に実践されているか

1 《家庭・地域の教育力の向上》に対する意見

(1) 家庭教育活動の充実

ア 親力の育成

家庭教育学級の合同講座が、今年度も2回実施された。いずれも子育て世代に関心の高いテーマで行われた。アンケート結果から参加者の満足度が高かったことがうかがわれる。今後の家庭教育学級の実践の参考になれば有益であろう。多くの方が参加されるように、事前に開催日程の調整などを図っていただきたい。

市内の5小学校の就学時健康診断時に実施した「親の学習」講座は、親が必要とする知識の習得するための学習の場として役立つよう努めてほしい。

イ 家庭教育活動における指導者育成

市内の5小学校の就学時健康診断時に実施した「親の学習」講座では、DVDの視聴や家庭教育アドバイザーの派遣がされた。

DVDの視聴により小学校生活を迎えるに当たっての準備や心構え、アドバイザーからは小学校課程での保護者の関わりについて助言があり、今後の子育てに役立てることができた。

また、市内在住の埼玉県家庭教育アドバイザーに登録されている方を対象とした情報交換会が開催された。家庭教育アドバイザー間で課題を共有し、経験を蓄積する場となることを期待する。

今後も各PTAと連携・協力しなから家庭教育アドバイザーとして

のスキルアップを図るとともに、その機能を確実に発揮できるよう努めてほしい。

(2) 家庭・地域・学校と連携して子どもたちを育てる取組の推進

ア 体験的な学習機会・活動の充実

白岡市は自然環境に恵まれているが、自然に親しみながら体験的な学習機会は少ないように思われる。そのような中で行われる田んぼの学校、自然観察会、わいわい料理教室の体験的な取組みは大変意義あるものである。

田んぼの学校は田植えから稲刈り、収穫した稲藁からしめ縄作りと試食会などを通し、主食である米に対する理解を深める大変よい企画である。今後も継続してほしい。

さまざまな体験学習に積極的に取り組んでいるが、全体的に参加が少ないのが課題である。そこで日程設定などを参加者の動向を考慮しながら、多くの子どもたちが参加できるよう工夫して、これらの取組みが継続されることを望む。

イ 放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進

放課後子ども教室は、今年度は新たに篠津小学校が加わり、菁莪小学校、白岡東小学校の3校で実施されたことは評価できる。年間に実施されたプログラムは、マーブリング、茶道教室、ペットボトル工作、うどん打ちなど多彩な内容であった。これだけのプログラムを計画、準備、実施する組織が各学校のコーディネーターやサポーター、さらにはボランティアで構成されていることは評価に値する。

子どもたちを地域の大人たちが見守っている安心感があり、参加した子供たちにとっては授業や家庭では体験できないことを楽しめることで満足度も高いと思われる。スタッフ、ボランティア等が事業運営に尽力していることを評価するとともに、この事業が地域の子育てネットワークの構築の推進に寄与し、市内全ての小学校で実施されることを期待する。

ウ 地域の子育て支援活動の促進

地域の子育て・家庭教育に関わる団体間での課題の共有、交流や共

同事業は地域の子育て力のアップに必要なことである。このような中で地域の子育て組織である「町ぐるみん白岡」と「おやじの会」との交流会等の開催を通じ、地域が一体となった子育て支援活動が推進できたことを評価する。また、昨年度から実施しているトークフォークダンスは中学生と地域の大人たちとの交流の場として評価する。

「ひこべえ森冬のつどい」での交流会は、市内の子育て支援団体、家庭教育に関わる団体だけでなく市内の中学生も参加した事業として実施されたもので評価する。

今後こうした子育て、家庭教育にかかわる団体の担い手を充足させることにも注力し、イベント等を通じて交流を深めて、地域が一体となった子育て支援の輪を広げる努力を続けてほしい。

2 《学校教育の充実》に対する意見

(1) これからの時代に求められる資質・能力の育成

ア 確かな学力の育成

「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るために各校で研修を推進し、課題発見・解決能力の育成を図ったことを評価する。

また、本市の児童生徒は全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査において、全国平均・県平均を上回り高い学力を維持している。このことを高く評価する。

今後は、「主体的・対話的で深い学び」の充実からその深化と恒常化を目指して「協働的な学び」を中心とした授業づくりの研修・実践が全ての学校において日常的に推進されることを期待する。また、1人1台端末の活用が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相乗的な効果により、学びを深めるための授業づくりにつながっていくよう努めてもらいたい。そして、本市の全ての教室が「誰もが互いにつながって学び合う教室」になることを一層強く願う。

イ 社会変化へ対応する力の育成

外国語教育、国際理解教育の充実のため、A L Tを全中学校に各1名また、小学校5校に対し2名配置し、成果をあげていることを評価

する。今後は、小・中の連携や授業時以外のA L Tの積極的な活用を促し、一層質の高い活用を期待したい。さらに小学校においても全ての学校に配置できることを期待する。

1人1台端末を生かした教育活動を推進する上で、情報モラル教育は必須である。児童生徒、保護者への啓発および教職員の研修の実施などに取り組んでいることを評価する。今後、保護者への啓発活動をさらに工夫して一層広く多くの保護者に「自分事」として心に届くものになることを期待する。併せて、生成A Iの普及に対する研修並びに児童生徒への啓発指導が差し迫った課題となっている。

(2) 豊かな心、健やかな体の育成

ア 体験的活動の推進と豊かな心の育成

特別の教科道徳を着実に実践したことと家庭用「彩の国の道徳」の周知により、道徳教育の充実を図ったこと、そして人権教育の推進を図ったことを評価する。とりわけ、中学校で生徒会主催の「人権集会」が行われていることは意義深い。人権尊重の大切さを考える機会として全ての生徒の心に届く取組として継続されることを願う。家庭用「彩の国の道徳」については、中学校における家庭への啓発が一層求められる。

イ 命を大切にする教育の推進

教育相談の充実のため、各校が定期的に教育相談連絡会を実施し、それに指導主事も出席し、学校と教育委員会が積極的に情報共有することにより、早期解決に努めたことを評価する。

全小学校に支援相談員を、全中学校にさわやか相談員を、さらに中学校にはスクールカウンセラーを配置することにより、いじめ防止や不登校児童生徒対策にきめ細やかに対応したことを評価する。可能であれば、スクールカウンセラーを全中学校に毎週1日配置し、小学校にも出向くことができるような環境が整うことを願う。

ウ いじめ防止対策の推進

いじめ防止対策推進委員会(定例会)を着実に実施し、協議事項を各校に周知することでいじめ防止について啓発を図ったことを評価する。

この取組は、不断に継続することが何よりも大切である。学校と家庭・地域ならびに行政機関が強く連携して子ども達を見守る体制をしっかりと築いていかなければならない。

特に学校においては、いじめの未然防止・撲滅のための取組をこれまで以上に確実に推進することを強く願う。

エ 心身の健康の保持増進

コロナ収束後であってもインフルエンザ等他の感染症を含め基本的な対策を怠ることなく、子ども達が互いのぬくもりを感じながら本当にふれあいのある学校生活を送れる時間が続くことを願うばかりである。今後も感染症に関する指導の充実に確実に取り組んでもらいたい。

体力向上はかねてより課題であるが、「働き方改革」を推進していく上で、業前運動や運動部活動を縮小せざるを得ない状況がある。体育の授業をしっかりと見直し、限られた時間、機会を最大限に活用して体力向上に努めてもらいたい。

ヤングケアラーの問題は現在喫緊の社会問題となっている。教職員研修を一層充実させ、教職員のみならず生徒にも理解を深めさせるよう継続的に取り組んでほしい。また、学校と関係機関が密接に連携し、児童生徒の家庭状況を把握することも積極的に進めてほしい。

(3) 教職員の資質・能力の向上

ア 教職員の資質・能力の向上

GIGAスクール構想を推進する上で、教職員のICT、情報管理（含セキュリティ研修）研修は欠かすことができない。本市では計画的に開催し、スキルアップを図っていることを評価する。さらには、授業の中での端末利用が「個別最適な学び」と「対話による協働的な学び」との相乗効果を生むような活用のあり方を十分に研修してほしい。

教員の質の低下が叫ばれる中、若手教員の育成は重要課題である。本市では新採用者、2年次、7年次にあたる教員の指導力を高めるため、研究授業を中心とした実践的研修を実施しており、このことを評価する。今後、授業研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを一層深める研修となることを願う。また、中堅教員対象の

ミドルリーダー育成をねらいとした研修の一層の充実にも期待するところである。

白岡市教育の日の研究発表会がコロナ禍による中止期間があったものの長年継続されていることは喜ばしいことであり、評価に値する。他校、さらには異校種の授業を市内の全教職員が実際に参観して学べる機会は決して多くはない。そして、委嘱校の実践が他校にも着実に広がり定着することを強く望む。この取組は貴重であり、今後も継続して取り組んでもらいたい。

イ 教職員の働き方改革の推進

教職員の働き方改革は、国をあげて早急に解決していかなければならない課題である。本市は、業務内容の精選に早くから取り組んでおり、実績がある。とはいえ、中学校では部活動の指導が教職員にとって、心身の負担を強いていることは過去から現在においても否定できない。そのような課題を受け、本市では県内においていち早く4年前から持続可能な部活動の推進に取り組んできている。

現在、全中学校で全部活動が地域クラブとして移行できていることを高く評価する。部活動を地域クラブへと移行すれば、それで中学校教職員の働き方改革が完結するわけではないが、大きな歩みであり、今後も研究実践を重ね、生徒も保護者も教員も納得できる形の地域クラブを実現していかなければならない。そうしてこそ初めて生徒としっかりと向き合う時間が確保され、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに勤しむことができる。更なる加速感をもって取り組んでほしい。

(4) 家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成

ア 家庭・地域・学校の連携・協働

全小中学校に学校運営協議会が設置され、定期的に会議を開催し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりの推進に大きく寄与している。また、教育委員会が主体となって各学校運営協議会間をつなぐ役割を果たした。このことを高く評価する。今後は、その充実を目指し一層盤石な組織として発展することを期待する。そのために、一人でも多くの保護者、地域住民に正しく深い理解をしてもらうための啓発

活動を継続的に行っていくことが大切である。

イ ふるさと意識の醸成

児童にふるさと意識を身に付けさせるためには、小学校3・4年生での社会科授業で郷土理解を深めさせるところが大きい。とりわけ社会科副読本「しらおか」の活用は大切である。副読本の編集に際し、編集委員会を定期的に開催し現場の教員の声を反映させて編集していることは意義がある。特に、県内でもいち早くデジタル版を作成し、それをタブレット端末により活用していることを評価する。

女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、SDGsの視点も踏まえた地場産物を活用した献立を給食で提供することで、児童・生徒のふるさと意識の醸成を図っていることを評価する。また、重点支援地方交付金の活用により、給食の質・量を維持した上で、保護者の学校給食費負担の軽減を図ったことを評価する。

(5) 児童生徒が安心して通うことができる教育環境の整備

ア 教育環境の整備・充実

学校の通信環境を適切に整備することで、児童生徒の端末を利用した学習が充実できたこと、またNEXTGIGAに向けて整備を進めていることを評価する。

職員による安全点検を計画的かつ定期的に実施し、迅速な修繕に努めることで児童生徒の教育環境の安全性を確保できたことを評価する。

学校適正規模・適正配置計画に関する「将来ビジョン」のとりまとめにおいて、審議会を立ち上げ計画的に開催できたことを評価する。併せて学校運営協議会での説明やアンケートの実施、及び教育シンポジウムの開催などで市民の啓発を図り、理解を求めたことを高く評価する。

イ 安全安心の確保

教育委員会が主体となって、校長会・教頭会において、施設設備を含めた安全管理の徹底について指導を行ってきたことで大きな事故なく学校運営が行われていることを評価する。また、学校教育全体で児童生徒への安全教育が行われ、大きな事故が起きていないことを評価

する。しかしながら、今後さらに予想される交通事情の悪化を考えると、小学校高学年から中学生の自転車の乗り方の啓発指導の充実は一層必要である。

（６）多様なニーズに応える教育活動

ア 特別支援教育の充実

全小・中学校に特別支援学級を設置し、教育補助員の活用や県立特別支援学校との連携、計画的な巡回指導等により特別支援教育の充実を図っていることを評価する。また、近年の状況を踏まえて通級指導教室（難聴言語）を今年度増設し、市内４学級となった。各教室で対象児童の指導が適切に行われていることを評価する。一方でこの教室を担当する教員には高い専門性が必要なので継続的に研修を行ってほしい。さらに、長期的視点をもって通級指導教室を担当できる教員の育成に努めてほしい。

イ 不登校児童生徒への支援

不登校児童生徒数の増加は、国全体で見ても大きな課題となっている。本市では教育相談体制の充実を図って対応しているが、特に教育支援センターの役割は大きい。適切な人員配置や常勤の所長を任用するなどして着実な運営ができていることを評価する。

ウ 外国人児童生徒・帰国児童生徒への支援

本市においても外国人児童生徒数は年々増加している。対象児童生徒が一日も早く級友との仲を深め、学級に適応できるよう日本語指導補助員を適切に配置していることを評価する。今後は、多様化が一層進むことが予想されるので多くの言語に対応できるよう人材を確保しておくことが望まれる。

エ 経済的支援

本市では、経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して就学援助制度、特別支援就学援助制度、入学準備金貸付制度などを講じて経済的支援を行っていることを評価する。

今後も市民・保護者へ制度の周知を進めてほしい。

3 《社会教育の充実》に対する意見

(1) 市民ニーズに応じた学習メニューの提供や図書館機能の充実

ア 生涯学習活動の推進

生涯学習活動の中で「ペアーズアカデミー」を5講座、公民館の前期講座14講座、後期講座13講座など積極的に多様で市民の意向やニーズに合わせたメニューを市民に提供していることを評価する。今後も趣味の講座をはじめ環境や人権、IT、国際問題など今日的な課題も取り上げて取り組んでほしい。また、公民館講座の市民企画講座なども継続してほしい。

生涯学習情報の提供では、多様な年齢層の人たちにも情報を届ける手段として、インターネットや広報の充実、ポスター等の活用を工夫して、「いつでも、どこでも、だれでも」学べるようにするために確実な情報を分かり易く、幅広い年齢層の市民に届けてもらいたい。

本市の生涯学習施設は、生涯学習機能、図書館機能、資料館機能をあわせ持っている。この特色を生かした施設間の連携として、生涯学習機能と資料館機能の連携としてペアーズアカデミーの連携講座や親子おもしろミュージアム、図書館機能と資料館機能の連携したギャラリー企画展の開催を評価する。今後も継続してほしい。

イ 生涯学習施設・設備の充実

本市においては、昨年5月6日の庁舎火災により庁舎機能の一部として約半年の間、生涯学習センターの多くの施設が使用された。また、公民館においても市議会議場として講堂が使用されたり、市主催会議の会場として使用された。これらのことにより、公民館利用者が急増し、施設が利用しにくくなったこともある。今後はこれらを教訓として生涯学習施設の維持管理に努めてほしい。

生涯学習センター〔こもれびの森〕は生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として親しまれ、広く利用されている。一方、公民館においてはさまざまな講座やサークル活動に利用されてはいるが、施設面では老朽化などの課題もある。公民館は多くの利用者がおり、また災害時の緊急避難場所でもあることから、必要な修繕や改修は怠らないよう配慮をお願いしたい。

両施設とも多くの利用者が安心安全に施設を利用できるように、今後も施設の適正な維持管理に務めてほしい。また、消防訓練は今後も定期的に継続して実施してほしい。

ウ 図書館機能の充実

こもれびの森の図書館は、いつも大勢の利用者で盛況である。このことは貸出人数や貸出点数に反映され、多くの人に親しまれていることがわかる。これは充実した施設環境、図書資料だけではなく、常に多様なニーズ対応したサービスの充実、バリアフリーサービスの向上など、利用者目線のサービスの向上に心がけている成果であり、高く評価したい。欲を言えば、様々な利便性の向上を広く知ってもらう工夫もほしい。

図書館資料、施設を活用した学びの機会の提供についても、文学講座、歴史講座、ファンファンシネマをはじめ多様な学びの提供についても評価したい。文学講座では東洋大学講師派遣事業の活用や日本工業大学との連携など創意工夫が見られる。今後も継続して進めていただきたい。

おはなし会など図書館ボランティア活動も活発で図書館事業をよく支えている。「広報しらおか」で特集を掲載するなど積極的にボランティア活動を推進する意欲を評価する。今後も持続的な活動ができるようボランティアの養成にも努めてほしい。

図書館機能の充実は、目標に掲げた事項を十分に満たしているものであり、今後継続して業務に望んでほしい。

エ 子どもの読書活動の推進

活字離れが進む中で、子どもの読書活動の推進は重要な事業である。図書館における子どもの読書活動の推進では、おはなし会の開催では3歳以上対象が36回延べ528名、0～3歳児対象が35回延べ804名と多くの参加者を得ている。また、夏休み子ども講座「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」、「子ども司書養成講座」、子ども司書活用事業などの取組みにおいて、幼児や子どもたちに図書館や本に対する興味や関心を深めることが成果としてあげられる。

家庭・地域・学校等における子どもの読書活動の推進の支援では、

ブックスタート、お父さんと一緒に本を読もう、学校等への読書活動の推進として学校等への団体貸出、ブックトークなどの事業実施について評価する。今後は一層の周知を図り、参加者の拡大を望む。

子ども読書活動を推進する体制の整備、啓発・広報の充実については、図書館を核とした家庭、地域や学校等との連携を一層強化していくことが望まれる。

オ 枠組みを超えた生涯学習活動の連携強化

「こもれびの森まつり」は「しらおか秋の彩りフェスタ」の一部として市役所周辺会場で好天にも恵まれ終日賑わいをみた。さまざまな催しに大勢の参加者を得て大きな成果を上げた。今年の「こもれびの森まつり」の会場が1階東側入口付近にまとまっていたため、図書館内や歴史資料館には人の流れが昨年のような多さではなかったようである。

図書館周辺の「こもれびの森まつり」では、市民ボランティア団体、日本工業大学などの参加協力を得て、盛りたくさんの催しが行われていた。日本工業大学の「サイエンス縁日-ふしぎ実験で学ぼう」では、電気の仕組みをわかりやすく説明しており、来場者は興味を示し満足していたようである。このように専門的知識を持つ教授からの説明は子どもたちに刺激を与えることと思われ、科学に興味を持つ子どもが誕生するかもしれない。この催しは普段、図書館に足を向けない人たちにも、図書館施設や歴史資料館を理解いただく良い機会であったと評価する。

(2) 人権教育の推進

ア 人権教育推進体制の充実

白岡市人権教育推進協議会研修会では、弁護士の川原祐介氏を招いて「いじめ問題と子どもの権利」と、学校の対応や保護者の対応について、具体的な事例等を交え分かりやすく解説された。社会問題にもなっている「子どものいじめ」に対する正しい理解が深められたと思われる。今後も様々な人権問題に視点をあてた取組みを続けてほしい。

“じんけん”ふれあいコンサートは1月24日に、こもれびの森多目的ホールで行われた。第1部の人権作文発表では、市内小中学校の

児童・生徒による人権作文の発表と表彰式が行われた。小学生3名、中学生2名の作文発表は、アンケート結果にもあるように聞こえた方には差別や平和についての作文に感動したとの意見が多かった。しかし、一方では発表が聞こえなかったとの意見も多かった。また、後方では発表者の顔もよくわからなかった。これは、来場者だけでなくせっかく練習して発表した方にも失礼にあたる。このことを教訓に来年度の開催にあたっては、発表しやすく、聞きやすい会場づくりに徹してもらいたい。

第2部の「ふれあいコンサート」は、ピアニスト戸澤小百合さんのコンサート『ピアノが紡ぐ物語』が行われた。戸澤さんは右手に「局所性ジストニア」を発症し、「左手のみで奏でる音楽」に新たな表現の道を見出し、演奏活動を行っている。難病にも負けず不屈の精神とその演奏は多くの観衆の心に響いたようだ。

イ 啓発活動の充実

本市においては人権問題の啓発として、“じんけん”ふれあいコンサートの開催や児童・生徒の人権作文集、各種啓発パンフレットを作成配布している。この人権作文集は、本市の子どもたちが人権問題という課題に向き合ってきた成果であり、人権問題について正しい理解と考え方をもち、身近な問題として考える啓発の場となったはずである。各学校での取り組みについて評価したい。

人権教育の啓発事業として“じんけん”ふれあいコンサートを開催しているが、各種団体での人権講話のような機会を増やして、積極的に機会を捉えた啓発活動を望みたい。

「広報しらおか」「市公式ホームページ」などでの人権教育・人権問題の啓発については、マンネリ化を避けながら、また様々な人権問題に関心が向けられるよう一層の工夫を望みたい。

(3) 文化・芸術活動の促進

ア 文化・芸術に触れる機会の充実

イ 市民の文化・芸術活動の支援

※令和7年度から文化・スポーツ振興課へ

(4) 郷土の文化財に親しみ、理解し、市民の力で守り伝える活動の推進

ア 文化財の総合的把握の促進

本市では県内に先駆けて、「白岡市文化財保存活用地域計画」の策定や「白岡市文化財保存活用市民会議」を立ち上げ、先進的に文化財調査・保護・活用事業を推進していることを評価したい。

分野ごとの調査精度の向上では、埋蔵文化財関連では発掘調査、試掘調査、報告書作成・刊行、さらに歴史資料館の企画展図録、歴史資料館紀要の刊行など、少数職員体制の中での実施を高く評価したい。

仏像、美術工芸品、建造物など未実施項目の調査の推進では、仏像調査を寶鏡寺と正泉寺の2か寺で実施し、着実に調査を進められた。

「総合的な把握」の手法を生かした調査の推進では、新たな白岡遺産として「小久喜ささら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」が認定された。また、セルフガイドの作成は構成文化財の周知と共に今後の調査の足がかりとして評価したい。

市民協働での調査活動やワークショップの促進では、今までの調査の成果を踏まえ、観福寺と白岡遺産保存活用市民会議との共催で野牛地区の新井白石関連文化財の一般公開が行われたことを評価したい。

イ 歴史文化の保存と継承

「白岡市文化財保存活用地域計画」に基づき着実に諸事業を実施していることを評価したい。

文化財の確実な保存と継承の取組の「文化財の文化財の管理と適切な伝承活動」では、複製すべき資料の抽出や指定文化財に対する補助金交付などを実施しているが、今後も継続して取り組んでほしい。

歴史文化の保存と活用のためには防災体制の構築は欠かせない。そのような中での「文化財防火訓練」が旧大山尋常小学校校舎を会場に消防組合や地域住民の参加を得て実施されたことは市民の文化財に対する防災意識の高揚に寄与している。今後は災害が発生した時に備えた文化財救出マニュアルの等の整備も進めてほしい。

「白岡市文化財保存活用地域計画」に関する理解促進では、「白岡市文化財保存活用市民会議」と連携して総会後に公開講演会を実施したり、歴史資料館の企画展で「白岡遺産」をテーマとしたり、新たな白

岡遺産を目指した白岡遺産の作り方講座を実施するなど今後の展開が楽しみである。

ウ 歴史文化の情報発信・普及活用の充実

文化財調査の成果の速やかな公開では、埋蔵文化財の発掘成果をいち早く市ホームページに掲載している。また、白岡遺産に関する文化財情報は、今後も「広報しらおか」掲載するなどして市民への普及活動を継続してほしい。

学校との連携強化の促進では、「未来の白岡」の絵画展に優秀作品の展示をした。「歴史学習支援事業」では、小学校、中学校それぞれ1校で文化財の実物を持参して実施した。こうした活動が歴史資料館をより一層身近なものとして感じてもらえる機会となることを期待したい。

歴史資料館事業の充実では、企画展「感じて！縄文土器の温もり」の開催、巡回展「新井白石の村政」を中央公民館など三会場で実施、定例展示解説を12回開催、資料館だより『のよみち』の発行、企画展図録、歴史資料館紀要の刊行などの大きな成果は上げた。

このように歴史文化の情報発信・普及活用の充実については、様々な取組みが着実に実施され、大きな成果として高く評価したい。

なお、今後も継続的な事業展開を推進していくには、現在の少ない職員体制では困難と思われるので専門的知識を持った職員体制の強化を望みたい。

エ 市民との連携・協働による歴史文化の保存・活用

「白岡市文化財保存活用地域計画」を市民参加で具現化する組織として、「白岡遺産保存活用市民会議」が設立され、諸事業が推進していることを評価したい。

白岡遺産保存活用市民会議との共催で観福寺の協力を得て実施した文化財の一般公開では、39名の方が参加された。また、白岡遺産セルフガイドブック2が刊行予定であり、今後の文化財理解と愛護に役立つことを期待したい。市民会議広報紙の「白岡市文化財保存活用市民会議だより」の発行をとおり多くの市民方への普及活動にも注目したい。

白岡遺産保存活用市民会議との共催による白岡遺産の作り方講座や

自主的なワークショップを開催し、市民提案による新たな白岡遺産として「小久喜ささら獅子舞の伝統と獅子舞を支える気風」が認定されたことを評価する。今後も市民や地域団体の担い手同士のネットワーク化や連携・協同による歴史文化の保存・活用をさらに推進してほしい。

(5) 生涯スポーツの普及・推進

ア 生涯スポーツの普及・推進

イ スポーツ指導者の育成

ウ スポーツ施設・設備の充実

※令和7年度から文化・スポーツ振興課へ

5 さらなる発展のために

子どもが成長する上で、子ども同士のつながりがどれほど大切であるかは言うまでもない。コロナ禍を通して私達はこのことを痛感した。そして、笑顔で豊かに暮らす大人達の温かい眼差しを受けることで白岡を愛する子ども達に成長していくことも学んだ。

日常を取り戻した今だからこそ、この機をとらえ、白岡の子ども達が笑顔であり続けられるよう最大の努力を払わなければならない。そのためには、まず、学校教育において、本市の全ての教室を真の「学び合う教室」にすることが何よりも大切であり、最優先課題である。今後の大きく変化する社会を生きぬくためには、「協働」により仲間とつながることの大切さを身に付けることが大切だ。「主体的・対話的で深い学び」を画餅に終わらせてはならない。各校の取組の自主性も大切ではあるが、この学びを確実なものにするためには教育委員会の指導力が大きな鍵となる。市内の全ての学校が「学び合う」学校に変わること、学力調査の点数では表すことのできない本当の意味での「確かな学力」を白岡市の子ども達は、身に付けられる。骨太の本物の学力を身に付けた子ども達は、いずれ白岡を担い発展させる大切な人材になる。

成長した子ども達が市外へ出て、グローバルに活躍する人材になることは喜ばしいことである。一方で市外、あるいは海外で活躍しながらも「ふるさと白岡」を忘れることなくいつかは白岡に戻ろう、白岡に根を張って生きていこうという意識を

失わないでほしいと思うのも正直なところである。子ども達が白岡を愛し続けるためにも、大人が笑顔で豊かに学び続ける姿を示すことが大切である。そして、誰もが生涯にわたって学び続けられる環境が整うことで大人達の連帯と絆が生まれる。コロナ禍後の新しい日常の中で、文化・芸術・スポーツの活動や事業がこれまで以上に人々の「連帯」や「協働」を促すものになることを期待する。「やってみたい」「行ってみたい」と思える事業を従前以上に積極的に展開することが必要である。

基本理念「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな文化を育む～」の実現のためには、子どもはもちろん大人も互いに学び合うことが大切である。「学び合い」によって連帯と協働が生まれ、絆ができる。それは市民同士のつながりを確固たる共同体（コミュニティ）に発展させる。そのコミュニティの実現のために教育委員会がリーダーシップを発揮することはもちろん、さらにファシリテーターとしての役割を果たすことも期待する。